

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2023年7月号

# 森のおくりもの7

NO.382 The Gift from Woods

アオカナブン（コガネムシ科）



ブログ↓



今年の梅雨明けはいつ頃になるのでしょうか？平年並みであれば7月24日頃、雨がシトシト降る森の中では、雨音と小鳥のさえずりが楽しめます。さて、ある雨上がりの日、樹液に集まる姿を多く見かけるカナブンの中でも人気の「アオカナブン」に出会いました。葉の上に光るものを見つけて近づけば驚きのサプライズ！こんな所になぜ？それも、水も滴る・・・言葉の意味そのまま雫がとってもきれいなアクセサリーだと思いませんか。素敵な出会いに感謝。

【館長：佐藤由美】

# 森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

## 『木乃伊取りが木乃伊になる(みいらとりがみいらになる)』

NHKの今期の“朝ドラ”の『らんまん』は、植物学者牧野富太郎がモデルということから注目して、楽しみに視聴しています。週ごとの副題には植物名がつけられ、6月5日からの週は「ノアザミ」でした。

実際のノアザミを見るとちょうど開花時期を迎えるところで、つぼみに花を訪れる昆虫を狙って待ち伏せをしている小さなクモがいて、知恵があると思いました。数日後に再び見ると、あのクモが干からびてミイラのようになっていました。ノアザミは、チョウやハチ・アブなどの飛んでくる昆虫に花粉を運んでもらう受粉戦略をしています。花の上からでは蜜を吸えない甲虫などは、花の下をかじって蜜を盗もうとするので、ネバネバで動けなくさせる、ゴキブリホイホイのような工夫をしています。待ち伏せしていたクモは、このネバネバで動けなくなっていたのです。ノアザミの知恵の方が一枚上手でした。

クモは、捕らえた獲物の体の中へ口から消化液を流し込み、溶けた汁を吸い込みます。硬い体の外側は、消化液で溶けずに残るので、ミイラのようになってしまいます。獲物をミイラにする側のクモが、ミイラになっていたのを見て、『ミイラ取りがミイラになる』だと思いました。「人を捜しに行った者が捜される立場になる」という時に使いますが、「最初に意図していたことと反対の状況、結果になってしまう様子」を表すことわざです。由来は、「ミイラとは不老不死の薬のことで、その薬は防腐剤で、死体に塗ってミイラにするための薬を探しに行った者が遭難してしまい、自分がミイラにされる立場になる」というのが語源らしく、あまり理解せずに使っていたと思いました。

ノアザミを観察していると、ネバネバの威力の凄さに驚かされました。くっついた虫がミイラになって、それを食べに来たザトウムシがくつつき、それらをアリが食べに来て、そのアリがミイラになっている状況が起きていたのです。ミイラの連鎖を目の当たりにして、ノアザミ恐るべしと思いました。

まだノアザミが咲いていたら、ネバネバを触ってみたり虫が付いているか確かめてみたりして観察を楽しんでみてください。【レンジャー：新田隆一】





# 森の「あれこれ」



## 「梅雨のgreat purple emperor」



☞左は2021年の7月7日13時34分、梅雨のさなかの芝生広場です。アザミの葉陰に近づくと羽化したばかりのオオムラサキでした。タテハチョウの仲間で大型の蝶、日本の国蝶になっています。ちなみに英名もgreat purple emperor。



樹液に集まる他の昆虫の中でも優勢でオオスズメバチを翅で叩いて追い払ったり、また頭上の羽音が小鳥と間違えるくらいの迫力で、その存在感は他の蝶と別格に感じます。



☞次は反対側からとった写真。切れ込みの深い葉では雨に当たってしまいましたが、鱗粉が水玉をはじく様子が見てとれます。ところで幼虫の食樹であるエノキの高いところについた蛹は何度か見たことがありましたがエノキから離れて低いところで蛹化したのは何か事情があったのでしょうか？



☞薄暗くなってきたのでフラッシュをたいた写真では翅の裏の黄色（図鑑にあった特徴）がよく目立ちます。以前よりオオムラサキを見かける事が少なくなりました。周辺の樹液の出る樹が減ったためか他の原因なのかわかりませんが今年はこの雄姿を見てみたいものです。

☞最後の写真は15時59分。なんと惚れ惚れするような立派な雄でした。観察はこれで終了し、翌朝はどこにも姿はありませんでした。無事に飛び立ってくれたかな。 【レンジャー：木田秀幸】

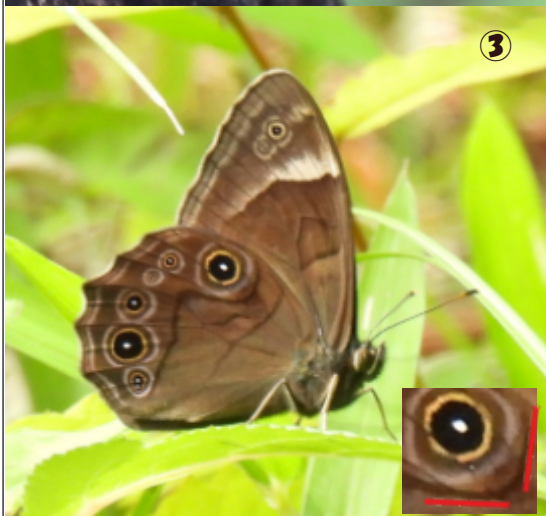
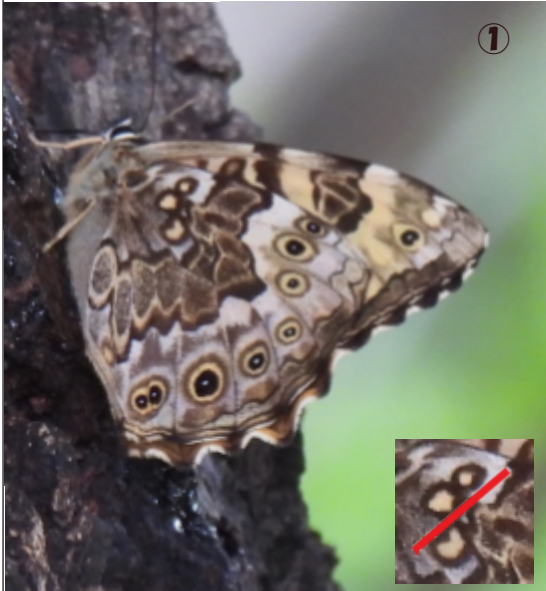
# 森は糸



# 森は布

森は様々な生き物が互いにつながって  
森として生きているんですね (\*~\*)

緑のトンネルが強い日差しを遮る散策路でよく出会うチョウがいます。ジャノメチョウ科の写真①ヤマキマダラヒカゲ、写真②サトキマダラヒカゲ、そして写真③のクロヒカゲ、写真④のヒカゲチョウです。①と②が、また③と④は一見同じチョウに見えるほどよく似ていますね。翅の色やジャノメチョウ科の特徴である目玉模様の濃さなど個体差はあるのですが、見分けるときに注目すべき部分があります。拡大して見てみましょう。…(^~^♪



各チョウの翅の拡大部分を写真の右下に入れておきました。どの部分を拡大したのか探してみてください。拡大部分の写真に赤線を入れて違いの比較ができるようにしてみました。①、②のチョウについては3つの斑紋、③、④のチョウについては目玉模様のふちを通る黒っぽいラインに注目してみてください。ジャノメチョウの仲間は見た目が地味で薄暗い所にもあり目立ちませんが、翅の模様や色合いなどを詳しく観察してみるとおもしろいですよ。生き物のもつ美しさ、また個性や意外性などいっぱい見つかるかもしれませんね。ところでこれらのチョウの脚の数は、あれ? (^~^♪ 【レンジャー:菅原幸彦】

# 7月のイベント&お知らせ

## イベント

- ◆森のアート感さつ会「きのこの森のアート」  
【日時】7月15日(土) 10:00~12:00  
【対象】小学3年生以上の子どものとその保護者 10名  
【内容】きのこの芸術的な造形に注目して自然のアートを楽しめます  
【持ち物】飲み物、帽子、虫よけ薬、かっぱ、歩きやすい服装と靴  
【申込み】7月6日(木)午前9時より電話受付(先着)
- ◆「どうぶつの森観察会」  
【日時】7月22日(土) 6:00~7:30  
【対象】小学3年生以上 10名 (中学生以下は保護者同伴)  
【内容】観察の森にいる野生動物や痕跡を探して観察します  
【持ち物】飲み物、帽子、虫よけ薬、かっぱ、歩きやすい服装と靴  
【申込み】7月7日(金)午前9時より電話受付(先着)
- ◆「セミの羽化を観察しよう」  
【日時】7月22日(土) 19:30~21:00 ※雨天中止  
【対象】小学3年生以上 20名 (中学生以下は保護者同伴)  
【内容】羽化するために出てきたセミの幼虫を探し、羽化の様子を観察します  
【持ち物】飲み物、懐中電灯、虫よけ薬、歩きやすい服装と靴  
【申込み】7月8日(土)午前9時より電話受付(先着)

※情報誌発行番号の訂正について/2023年4月号から6月号に誤りがございました。深くお詫び申し上げますとともに、4月号No.379、5月号No.380、6月号381号と訂正させていただきます。

**ガイドウォーク** 毎週日曜日開催  
申込み不要、どなたでも参加できます

**開催日: 2日, 9日, 16日, 23日, 30日**  
**時間: 10:00~11:30, 13:30~15:00**  
**※4月~11月は午前・午後の2回実施します**

**休館日**



**3日, 10日, 18日, 24日, 31日**  
毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合翌平日が休館

### 観察の森へのアクセス

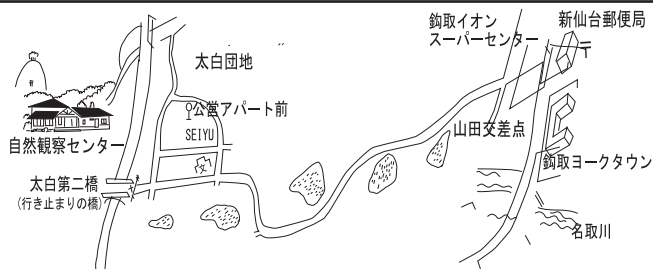


#### 宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
  - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
  - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」  
※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」  
いずれも 公営アパート前 下車 → 徒歩15分

#### お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。  
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。  
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63  
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会  
編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター